

地方自治体への補助として6,115億円、補助事業費全体として前年比1.2倍となっています。高速道路の新規建設、メンテナンス費用などの有料道路事業等の事業費については2.8兆円強となっており、道路事業全体で5.8兆円、前年比1.19倍となっています。

主要施策の取り組みについては各主要施策の基本方針として世界一安全（Safe）、スマート（Smart）、持続可能（Sustainable）な道路交通システムの構築に向け大きく6つの施策に取り組みます。

- ①防災・減災・国土強靱化：5カ年計画にある災害に強い道路ネットワークの構築や道路老朽化対策に引き続き取り組むとともに、危機管理体制の強化を推進
- ②予防保全型メンテナンスへの本格転換：ライフサイクルコストの削減や効率的かつ持続可能な維持管理が実現できる予防保全型メンテナンスに向けて定期点検により顕在化した必要な修繕と新技術

の活用を推進

- ③人流・物流を支えるネットワーク・拠点の整備：第三次国土形成計画に基づいた高規格道路等の整備や機能強化、交通拠点の整備、渋滞対策、物流支援等への取り組みを推進
 - ④GXの推進による脱炭素社会の実現：「道路におけるカーボンニュートラル推進戦略」を踏まえ、道路分野における脱炭素化の取り組みを推進
 - ⑤道路システムのDX化：道路の調査・工事・維持管理等や行政手続きの高度化・効率化を図るDXの取り組み「xROAD」を加速
 - ⑥道路空間の安全・安心や賑わいの創出：交通安全対策や地域の賑わい創出等に向けた、道路空間への多様なニーズに応える取り組みを推進
- それぞれの講演後、活発な意見交換が行われ、道路交通委員会は閉会しました。

第109回全国自動車会議所専務理事会

上期事業活動および主要課題について意見交換

「ジャパンモビリティショー2023」も視察

第 109回全国自動車会議所専務理事会が10月26日、27日の両日、東京都江東区の東京ベイ有明ワシントンホテルで開催されました。全国各地の自動車会議所から専務理事や理事長ら17団体22名が出席し、2団体2名がリモートで参加しました。

初日は冒頭、日本自動車会議所の山岡正博専務理事の挨拶に続いて、今年度新たに就任した大分県自動車会議所の三浦一也専務理事、愛媛県自動車会議所の松本真一専務理事、静岡県自動車会議所の武田真一常務理事の3氏が、初の出席者として紹介されました。

その後、当会議所から畠山太作常務理事などが組織運営、税制、交通安全、保険やクルマ好き拡大をはじめ2023年度上半期の各活動進捗状況を報告しました。また、第3回「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」（CSP大賞）についても、これまでの募集開始や募集促進の取り組み、関連記事の掲載状況などを詳しく説明しました。

その後、各会議所の課題について活発な意見交換が行われ、会議所間の情報共有が進みました。



2日目は、「ジャパンモビリティショー2023」を視察し、はじめに日本自動車会議所も協力している自動車整備人材確保・育成推進協議会のブースにおける子供たちへの整備士体験プログラムを見学しました。また、スタートアップ企業をはじめ、出展各社の展示ブースでは自動運転や空飛ぶクルマなど、未来のモビリティ社会を構築する目覚ましい技術発展を実感することができました。

なお、次回の全国専務理事会は来年2月に開催する予定です。

自動車税制改革フォーラム

ユーザーの税負担軽減を訴える活動チラシを制作

全国での街頭活動を4年ぶりに再開

当会議所や日本自動車連盟（JAF）など自動車関係21団体で構成する「自動車税制改革フォーラム」は、自動車ユーザーの税負担軽減を訴える街頭活動を4年ぶりに全国展開することに伴い、活動チラシを新たに制作しました。「みんなで考えよう！クルマの税金」をテーマに、改めて過重・複雑・不合理なクルマの税金の見直しを訴求するとともに、フォーラムのイメージキャラクター「カー太くん」も登場させ、より親近感を覚えるデザインとしました。4年ぶりに再開された街頭活動は、大勢の人が集まる駅前や商業施設、イベント会場などで今秋から全国で展開されています。

「カー太くん」も登場する活動チラシ

みんなで考えよう!
クルマの税金

自動車ユーザーの98.4%が
自動車にかかる税金に
負担を感じています

ご存じでしたか?
自動車の税金には・・・

- 1 自動車ユーザーは
98万円もの税金を
負担しています。
- 2 クルマを購入・所有すると
13年で180万円の税金を
負担することになります。
- 3 クルマの税金には不合理な
「当分の間税率」や「Tax on Tax」と
いった仕組みが続いています。

みんなの声を届けます。

クルマの税金
重すぎ
取りやすいところから
取らないで!!

子育てにも
クルマは必須です
家にはクルマが
数台あって
税金の高さに
おどろいています

◆ 私たちは自動車ユーザーの率直な声を政府等に届ける活動を行っています。
◆ 自動車ユーザーはクルマの税金に負担感や不合理さを抱えています。
◆ こうした声を結集して、私たちはクルマの税金の見直しを訴えています。

みなさまの率直な意見を
お寄せください。

https://cam.jaf.or.jp/s/847838a/c?pid=7015

JAF(日本自動車連盟)
自動車税制改革フォーラム

JAF 税制 検索

日本自動車連盟(JAF) 日本自動車工業会 日本自動車販売協会連合会 全国軽自動車協会連合会 日本自動車部品工業会 日本自動車輸入組合 日本中古自動車販売協会連合会
日本トラック協会 日本自動車流通協会 全国商業用自動車協会 日本自動車整備協会連合会 日本自動車リース協会連合会 日本PA協会 全国流通協会 日本自動車修理工会
全国マイカーセンター協会 全国レンタカー協会 日本自動車タイヤ協会 日本二輪車連盟協会連合会 自動車用品協会連合会 全国自動車部品卸売協会 以上12団体 総代理



日本自動車会議所は10月30日、東京都港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第295回会員研修会を開催しました。リモートも併用し、全国自動車会議所など各地から計約50名に参加いただきました。今回は「自動車産業における脱成熟化：(ソフトウェア・デファインド・ビークル)で変容する価値構造」をテーマに、講師には次世代モビリティに詳しい法政大学准教授の糸久正人氏をお迎えしました。

講演では、日本の自動車産業の実情について「自動運転、電動化などCASE革命によって100年ぶり



糸久 正人氏

に脱成熟化の様相を呈しています」と説明。その上で、1908年にT型フォードというドミナントデザインで規定された自動車は「『テスラ』をはじめとしたSDV（通信技術を通じて各種機能がアップデートされるソフトウェアによって定義されたクルマ）の登場で脱成熟化の局面を迎えようとしています」として、新たなイノベーションの波が発生して関連ビジネスモデルも大きく変容すると強調しました。

自動運転やシェアリングが進展する中で「次世代モビリティのコア技術はソフトウェアであり、クルマの付加価値の大部分はソフトウェアが占めることが予想されます」と指摘。ただ、日本の完成車メーカーのSDVへの対応については「現状では（海外勢に）後塵を拝しています」との見方を示しました。

自身が委員を務める国土交通省「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」にも触れ、各地域の公共サービスとして実証実験が進んでいる自動運転バスの事例なども紹介いただきました。



日本自動車会館入館14法人で組織する日本自動車会館運営委員会（委員長＝永塚誠一日本自動車工業会副会長・専務理事）は、10月10日、同会館「くるまプラザ」会議室（東京都港区）で第6回「日本自動車会館交流会」を開催し、162人が参加しました。

入館各法人から選出の実行委員が企画し、事前準備から当日の運営までを担当しました。

交流会では、クイズ大会や景品が当たる大抽選会を実施。クイズ大会では「ジャパンモビリティショー」や今年開催3回目を迎える「クルマ・社会・パートナーシップ大賞（CSP大賞）」など入館団体の相互理解につながる問題が出題され、テーブルごとのチームで相談・回答する形式で懇親を深めました。また、開催テーマに東北復興を掲げ、東北地方に関わりのある飲食物や景品を提供しました。

交流会開催は今回が6回目。コロナ禍の影響で、4年ぶりの開催となりましたが、会場はところ狭しと、にぎやかな会話と親睦の輪が広がり、来年の開催を期待する声も上がる中、大いに盛り上がり、交流会は終了しました。

「第38回自動車なんでも無料相談」開催

Toyama まるっとクルマフェスタ 2023

富山県自動車会議所

富山県自動車会議所は10月8日、富山運輸支局の構内において「第38回自動車なんでも無料相談」を行いました。令和元年（2019年）に台風の直撃で中止、その後、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見送ってから、実に5年ぶりの開催となりました。会議所会員で構成する富山県自動車関係団体主催で、支局、独法等が共催。今年から、イベント名を「Toyama まるっとクルマフェスタ」と銘打って、自動車に関する困りごとの解消や次世代自動車の普及、マイカー無料点検等、広く車に関心をもってもらうよう取り組みました。

県内のディーラー12社の協力のもと、輸入車を含む最新の次世代自動車（EV・FCV）12台が大集合！最新のEVバイクなど8台も展示しました。NASVAの衝突実験車両の展示や、着ぐるみの「ナスバちゃん」も登場し、自動車事故防止・被害者支援の啓発・広報にも務めました。

日本自動車会議所提供のクイックアームとクイックステップも列ができるほどの盛況ぶり。家族連れの来場者が目立ち、子どもたちにも車に大に関心を持っていただきました。5年ぶりの開催でしたが、



盛りだくさんの内容で、多くの来場者の皆さんに、車への関心を高めていただきました。

「とやま環境フェア2023」に出展

エコドライブの大切さをアピール！

富山県自動車会議所

富山県自動車会議所は10月14日、15日の両日、北陸信越運輸局と共同で、高岡テクノドームにおいて4年ぶりの大規模実開催となった「とやま環境フェア2023」に出展しました。「水と緑に恵まれた幸せ富山をめざして～私たちの未来 今、行動するとき～」と題して開催された今回の環境フェアは、当会議所も委員となっている同フェア開催委員会の主催で、県内外から62のグループ、団体が出展しました。



今年は、当会議所と北陸信越運輸局の共同出展となり、クイックアームとクイックステップで来場者を集め、自動車による環境への負荷の軽減や交通事故の減少に繋がる「エコドライブ」に関するアンケートを実施し、屋外では、ディーラー4社のご協力でもエコに繋がる次世代自動車の展示も行いました。

フェアに参加していた芸人やピエロも参加し、アームとステップを合わせ2日間で687人が体験するなど、楽しくにぎやかな取り組みとなりました。

「自動車なんでも無料相談所」を開設

愛知県自動車会議所

愛知県自動車会議所は10月22日、23日の2日間、名古屋市中区の金山総合駅コンコースにおいて、国や愛知県の後援を得て、今年度で16回目となる「自動車なんでも無料相談所」を開設しました。会場では愛知運輸支局等の行政機関や自動車関係16団体から派遣された相談員が42件の相談を受けました。相談内容はナンバープレート、運転免許証に関するものが上位を占めていました。

会場には、交通安全ミニイベントとして、敏捷性を測定する「クイックアーム」を設置したほか、日本自動車連盟愛知支部の「ドライブシミュレーター」や「ドライバー支援システム」の動画視聴コーナー、自動車事故対策機構のマスコットキャラクター「ナスバちゃん」とのふれあいブースを設け、いずれも好評でした。

また、全国版図柄入りナンバープレート、大阪・関西万博特別仕様ナンバープレート、豊田・春日井・岡崎の地方版図柄入りナンバープレートの見本

令和5年「秋の叙勲・褒章」

当会議所関係者多数が受章

令和5年秋の叙勲・褒章で、当会議所の会員団体・企業関係者多数が晴れの栄誉に輝かれました。

【叙勲】

◇旭日大綬章

- ・尾崎 裕氏：元日本ガス協会会長
- ・中川 雅治氏：東京都自動車会議所会長
元環境大臣

◇旭日重光章

- ・月岡 隆氏：元石油連盟会長
- ・早川 茂氏：トヨタ自動車(株)副会長

◇旭日中綬章

- ・三浦 廣巳氏：秋田県全自動車協会会長

◇旭日小綬章

- ・今井 高志氏：元青森県自動車団体連合会会長
- ・水野 功氏：元日本陸送協会会長

◇瑞宝重光章

- ・梶野 龍二氏：元全日本トラック協会理事長

◇瑞宝小綬章

- ・西脇 尚澄氏：自動車検査登録情報協会専務理事

◇瑞宝双光章

- ・池村 直樹氏：元石川県自動車会議所専務理事

【褒章】

◇藍綬褒章

- ・清水 隆史氏：TOYO TIRE社長兼CEO
日本ゴム工業会会長
元日本自動車タイヤ協会会長



を展示するとともに、全国の地方版図柄ナンバーを実寸サイズで掲載したタペストリーを展示しました。さらに、中部運輸局による特定小型原付（電動キックボード）のブースが設けられ、広報活動が行われました。